

県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」への対応方針等

資料4

番号	提言機会	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	目安箱	徳島県の今後のイメージ戦略について	<p>徳島県の今後のイメージ戦略として、体験型スポーツを県を挙げてのコンテンツとして取り上げるべきだと考える。</p> <p>県として、各地で行われているスポーツのマップ作りやツアー企画、大鳴門橋を通ってのサイクリングコース構想があると聞くと、各地のサイクリングコースの整備や、山間部にはクライミングできる場所やハイキングコースの整備をしてはどうか。</p> <p>徳島県が先駆けて徳島スポーツパーク構想を発信し、阿波おどりなどのインバウンドツアーに結びつけばと思う。</p>	<p>本県では、新たな観光素材に焦点をあて、サーフィン、SUP等のスポーツをはじめ、「阿波おどり」や「四国遍路等の文化」など、「体験・アクティビティ」をテーマに観光キャンペーンを実施しており、観光ガイドブックや観光情報サイト「阿波ナビ」を活用し、県内外での情報発信に努めているところです。</p> <p>また、平成21年度から取り組んでいる「自転車王国とくしま」においては、県内の25の公式コースを活用し、4日間で徳島の自然・文化を巡る「自転車王国とくしまGoAroundコース」を新たに設定しています。</p> <p>今後とも、徳島ならではの観光素材を活用した施策を推進し、国内外から多くの観光客の皆様に「魅力溢れる徳島」を体験頂けるよう取り組んで参ります。</p>	県民 商工
2	目安箱	食品ロスを減らすウェブサイト作成について	<p>飲食店で余った商品を定価より安く提供するというウェブサイトがあるが、主に首都圏の店舗に限られている。そこで、徳島版の同じようなサイト製作を提案する。</p> <p>年間何トンの食品ロスがあるだとか、国連援助量の倍だとか聞いても、それを実生活の中で意識して過ごし、かつ、行動することは容易ではない。しかし、こういったサイトがあれば、飲食店の商品を低価格で購入できるため、県民自らすすんで行動し、結果的に食品ロスを減らし、社会貢献につながる。</p> <p>また、それにより、県民全体の食品ロスに対する意識の向上も推進できると思う。</p>	<p>飲食店等で余った食品の廉価販売情報をウェブ上で公開し、消費者が選択的に購入することで廃棄される食品を減らすサービスについては、消費者が日常生活の中で、無理のない範囲で「食品」を廃棄から救い出すこと（レスキュー）ができるシステムとして、社会的な意義があるものと考えられます。</p> <p>こうしたウェブサイトは、収益を伴うことから民間企業が開設しており、県としては、今後様々な機会を捉え、食品ロス削減に有効な取組みの一つとして、関係者へ情報発信するなど普及啓発に努めて参ります。</p>	県民
3	目安箱	麺フェスの開催について	<p>徳島には、徳島ラーメン・半田そうめん・鳴ちゆるうどん・祖谷そばなど、様々な種類のご当地麺が存在する。しかし、これらの有名店を巡ろうとすると時間とコストがかかるため、各麺の有名店を集めた麺フェスタを開催してほしい。</p> <p>現在、B級グルメなどのご当地のグルメが流行っているので、この機会に、徳島の認知度を広める活動を行うと良いのではと考える</p>	<p>本県では、これまで「食」をテーマとした観光キャンペーンを展開し、観光ガイドブックや観光情報サイト「阿波ナビ」により、麺をはじめとした徳島の「食の魅力」について情報発信するとともに、例年11月に開催している「秋の阿波おどり」においても、麺やB級グルメなど郷土料理を楽しめるグルメブースを設け、県内外からの来場者に「食」のPRを行っているところです。</p> <p>今後とも、WEBやSNS、各種イベントを活用した徳島の「食」のPRに取り組んで参ります。</p>	商工

番号	提言機会	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
4	目安箱	徳島オリジナル補給食の開発について	<p>今や四国最大規模のイベントに成長したとくしまマラソンや、ビルドアップ事業により更なる強化が期待される自転車王国とくしま等、徳島県の種々の取組によって、スポーツレクリエーションの気運が高まりつつあると感じている。</p> <p>そこで、提案として、地元の特産品などを使用した徳島オリジナルの補給食を開発し、イベント等で販売してはどうか。試合での使用はもとより、土産品としても人気が出るのでは。</p> <p>阿波ふうど協賛企業やベンダー、大手製薬会社などと共同開発すれば、栄養素や味にこだわった地場感のあるすばらしいものができあがるのではないかと。</p>	<p>地元の特産品を使用した徳島オリジナルの補給食については、「六次産業化推進連携協議会」に本提言内容を紹介したところ、効果的な栄養補給などの専門的な技術面からの課題があり、現時点では商品開発の着手に至っていない状況です。</p> <p>本県では、県産農産品のブランディングを図るため、農商工が連携した6次化商品開発等を推進することとしており、いただいた提言については今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>	農林
5	わくわくトーク	将来の進路としての農業について	<p>女性や若者が将来の進路を考えるときに、選択肢の一つとして農業が候補に挙がるような状況、農家出身でもなければ畑も施設もない人でも就農しやすい環境づくりが必要ではないか。</p> <p>学校の就職支援課での紹介や求人情報サイトへの掲載によって若者にも情報が届くようにすれば、また、農業にトライしてみたいという人への待遇保障や社会保険も整備していければよいと思う。</p>	<p>女性や若者の就職先の1つとして農業が検討されるよう、学校やメディア媒体を用いた就農情報を発信し、インターンシップ等の取組みを推進しています。</p> <p>また、非農家出身で生産基盤を有さない者の就農先として、農業法人の育成を推進しており、農業経営のみならず、雇用就農者の待遇や社会保険の整備等の受入れ環境充実にも取り組んで参ります。</p>	農林
6	目安箱	ブロック塀問題について	<p>大阪の地震でブロック塀が問題となっている。行政は県民への模範となる塀のあり方を考えていくべきである。</p> <p>徳島独自の藍色のフェンスや県産材を活用した木製の塀、コンクリートブロックの場合も地域の子どもや住民に絵を描いてもらったり、控え壁を設けない高さにして外側土地に植栽を植える、RC造の壁は意匠を凝らす、町並みが優れた地域には築地塀等、日本古来の壁を採用する。</p> <p>まずは、県、市町村には補助金、県民には公募型抽選での補助を採用するなどして、全国に誇れる徳島独自の塀の政策を設けるべきである。</p>	<p>平成30年9月から平成31年2月にかけて実施した、県営住宅の既存ブロック塀の建替えに際し、道路に面する塀など、一般県民の目に触れるものについて、「県産木材を活用した木塀」を採用したところ。</p> <p>また、民間の危険ブロック塀についても、令和元年度から、ブロック塀の撤去及び新設に対する補助を行っており、所有者等が、県産材を活用した木塀等の特色ある塀を新設する場合にも、補助を受けることが可能となっているところです。いただきました意見を参考に今後の施策展開を図って参りたいと考えております。</p> <p>(参考)撤去及び新設補助概要:上限事業費50万円,補助率2/3(国1/3,県1/6,市町村1/6)</p>	県土

番号	提言機会	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
7	アイデア募集型パブリックコメント	徳島に興味を持ってもらうための体験学校の実施について	<p>「夏の徳島体験学校」として、夏休みの1週間程度、県外の小学生を受け入れてくれる家庭を募り、虫取り、水遊び、畑仕事、藍染め体験、阿波おどり等、徳島ならではの夏を体験してもらってはどうか。</p> <p>これにより、将来、その子どもたちが成長し、進路を選ぶときに、徳島で就職したいという思いを持った人が出てくることも期待できる。</p>	<p>本県では、「デュアルスクール」という事業を全国に先駆けて実施しています。都市部に住んでいる家族が2週間程度徳島に滞在し、その間、児童生徒は県内の学校に通うことができるというものであり、地方と都市双方の視点を持った子どもを育成するとともに、「二地域居住」や「地方移住」を促進することを目的としています。</p> <p>児童生徒は学校に通いながら徳島での日常を過ごす中で、友達と自然の中で遊んだり、地域の文化を体験することが可能です。また、実施家族の中には、徳島を気に入って複数回実施された方や徳島への移住を検討している方もいます。</p> <p>今後もデュアルスクールを推進し、徳島ファンの創出に努めて参ります。</p>	政策教育
8	わくわくトーク	小規模農地の貸出しマッチング等について	<p>県外からの移住者等、個人が農地を借りることのハードルが高い。地元の人が管理に困る耕作放棄地の活用のためにも、小さな農地の貸出しのマッチング策が必要ではないか。</p> <p>また、若者が、やる気とアイデアさえあれば裸一貫で移住して起業できる小規模多品目農業、六次産業化まで見据えた新しい農業の可能性を切り開くための支援策をお願いしたい。</p>	<p>農地中間管理機構の「現地推進員」や、農業委員会の「農業委員」や「農地利用最適化推進委員」等との連携を図り、農地のマッチングや貸借手続の支援等を通して、担い手への農地集積を推進しています。</p> <p>また、市町村や県等の関係機関が連携して、移住者の受け入れを推進するとともに、移住者が安心して農業に従事できるよう、新規就農者への定着支援や、六次産業化研究施設を活用した人材育成を進めて参ります。</p>	農林
9	わくわくトーク	にし阿波地区での「雑穀サミット」の開催について	<p>神話の時代から穀物と由縁のある阿波の地で、スーパーフードとして注目されていくであろう雑穀に焦点を当てた「雑穀サミット」を開催してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産現場を動画等で紹介 ・新しく健康志向な料理方法を考案して試食 ・雑穀を生産する日本各地、世界各国をつなぐ。 ・サミット後も、農業体験、農泊ツアーを企画、実施 <p>にし阿波の急傾斜地農法を守り、継続することの大切さ、「雑穀の未来」を語り合うイベントを、官民の協力、アイデアで実現できればよいと思う。</p>	<p>「にし阿波」は、古くから地域固有の雑穀栽培が受け継がれており、「持続可能な開発目標(SDGs)」における「食料の安定確保・持続的農業の取組み」に寄与する雑穀産地としての可能性を有するとともに、次代に遺すべき遺伝資源の「ジーンバンク」としての重要な役割を果たす地域です。</p> <p>このようなことから、徳島剣山世界農業遺産推進協議会や関係市町・団体等と連携しながら、首都圏での情報発信、雑穀の栽培推進、加工品や料理メニューの開発等の取組みを進めています。</p> <p>今後、推進協議会や関係市町・団体等と連携しながら「雑穀サミット」の開催に向け検討して参ります。</p>	西部

番号	提言機会	項目	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
10	目安箱	高齢ドライバーのブレーキ踏み間違い防止について	<p>新聞記事によると、高齢ドライバーによる交通事故が増えていることを受け、東京都がアクセルとブレーキを踏み間違えた際に急発進を防ぐ装置の取り付け費用を補助する方針を表明した。</p> <p>私の親も高齢ドライバーなので、こうした装置をつけてあげたいが、公的な補助がなければ費用が高額なため難しい。ぜひ検討してほしい。</p>	<p>県内を含め、全国各地で相次ぐ、ブレーキとアクセルの「踏み間違い事故」の防止に向け、「70歳以上の高齢者」を対象に「後付けの安全運転支援装置」の補助制度を創設し、令和元年11月1日から申請受付を開始したところです。</p> <p>本補助制度により、県内での後付けの安全運転支援装置の普及を図り、高齢者の事故防止に向けた支援を進めて参ります。</p>	危機
11	アイデア募集型パブリックコメント	これまでのスポーツ強化策の見直しについて	<p>有力選手を特定の高校に集めるとか、ジュニア期から発掘してトップレベルの競技者に育成するという方法は、才能がたまたま開花した子のみを選抜するだけで、人材の「先細り」になる。</p> <p>ジュニアには、正しい体使いと知識の下で多競技を楽しませつつ、巧緻性も高めさせることが、また、成績優秀者だけではなく、挑戦したい者、やる気のある者もチームに混在でき、選考会へも出場できるようにすることが、底辺の拡大、全体のレベルアップにつながる。</p>	<p>とくしまトップアスリート発掘・育成プログラム事業で、大学等の医・科学機関と連携して小・中学生の体力等を科学的に測定・分析し、優れた素質を有する人材を発掘するとともに、「NEO徳島トップスポーツ校強化事業」において、指定校が各競技の育成・強化の中心校として、競技団体や中学校体育連盟等と連携して、中学生対象の練習会や講習会等を実施し、ジュニア期の選手の育成支援と高校運動部活動の魅力発信に取り組みます。</p> <p>加えて、様々なスポーツ体験や発達段階に応じた適切な指導により、子どもたち自らが競技スポーツに挑戦したいと思えるきっかけ作りとなるスポーツ施策の展開に努めて参ります。</p>	県民教育
12	アイデア募集型パブリックコメント	徳島県防災エキスパートの活用について	<p>県職員（土木職）OBで構成する「徳島県防災エキスパート」をもっと活用した施策を検討してもらいたい。現状は、災害時の被害速報のみを業務としているため、ほとんど実績がない。せっかくの経験則や暗黙知が埋もれているのはもったいない。</p> <p>例えば、平常時には河川の巡回・点検への参加、発災時には現場指導など、幅広い活動ができる組織を目指してもらいたい。</p>	<p>「徳島県防災エキスパート制度」の運用を行っている公益財団法人徳島県建設技術センターと連携しながら、災害時の被害情報の把握や応急復旧対策の検討、指導を行う際の助言にとどまらず、平時から相互に協力、連携し大規模災害に備えて参ります。</p>	県土